

22 アルゼンチン

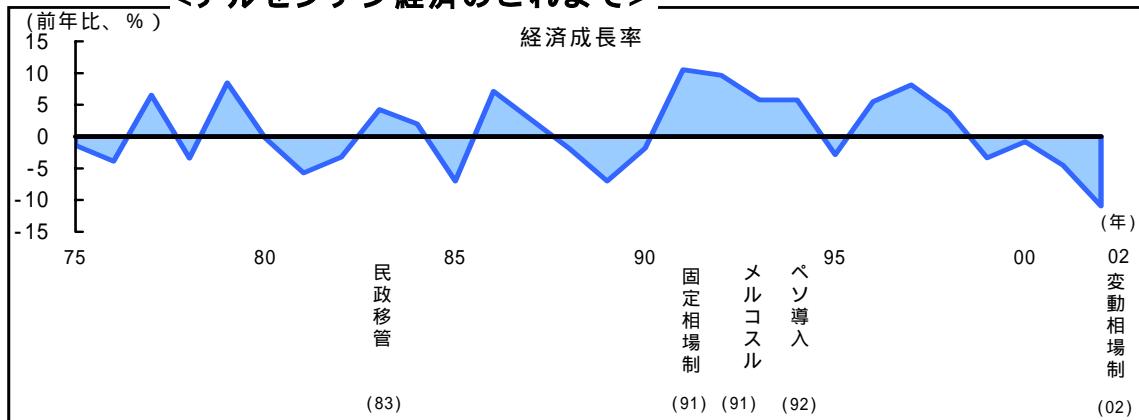
Argentine Republic

<2002年>

人口	3,798万人 (日本の約1/3)	財政会計年度	1月～12月
一人当たりGDP	2,687ドル	為替制度	変動相場制(注)
産業構造(GDP構成比)	1次産業 10.7% 2次産業 32.0% 3次産業 57.3%	通貨	ペソ 1米ドル=3.1ペソ(注)
		面積 273.7万km ² (日本の約7倍)	

(注) 2002年2月より変動相場制に移行

<アルゼンチン経済のこれまで>



アルゼンチンの主要経済指標

		92～01年	2002年	2003年		2004年		民間機関
				政府	IMF	政府	IMF	
実質GDP	前年比%	1.5	10.9	5.5	5.5	4.0	4.0	実質GDP 2003年
鉱工業生産	同上	0.5	10.7	-	-	-	-	平均 5.9
消費者物価	同上	4.2	25.9	6.0	14.3	10.5	7.7	最大 7.2
失業率	%	13.7	19.7	-	-	-	-	最小 5.0
経常収支	億米ドル	89.5	93.2	-	-	-	-	2004年
(GDP比)	%	(3.3)	(9.9)	-	(5.4)	-	(4.5)	平均 4.6
財政収支	億米ドル	29.7	13.5	-	-	-	-	最大 5.3
(GDP比, 年度)	%	(1.0)	(1.3)	-	-	-	-	最小 4.0
政府債務残高	億米ドル	1,018	1,373	-	-	-	-	(4社)
(GDP比, 年度末)	%	(37.7)	(134.6)	-	-	-	-	

(備考) 1. アルゼンチン経済省、IMF "International Financial Statistics"、データストリーム。見通しの政府は財務省(2003年9月)、IMFは "World Economic Outlook"(2003年9月)。

2. 実質GDPの92～01年は94～01年、鉱工業生産は95～01年の平均。

3. 失業率は各年の5、10月調査の平均値。

<2003～2004年の経済>

2003年前半の経済成長率は、前年比6%程度と99年以来のプラス成長となった。2002年の金融システム破綻以降、大幅に落ち込んでいた個人消費や投資が持ち直してきており、2003年後半も前半と同程度の緩やかな回復が続くと見込まれる。2003年全体としては、5%台半ばの成長が見込まれており(政府見通し5.5%、IMF見通し5.5%、民間機関4社平均見通し5.9%)春時点(3～4%)より上方修正されている。

2004年は4%程度の成長が見込まれる(政府見通し4.0%、IMF見通し4.0%、民間機関4社平均見通し4.6%)。景気刺激策もとられ、経済は安定しつつあるが、本格的な回復には至っていない。またIMFとの融資に関する経済プログラムの中期合意には達したが、民間債務再編が未解決であり、今後どう解決していくのか注視される。さらに、IMFとの中期合意に含まれる財政黒字GDP比3%の範囲内で貧困問題や失業問題等にいかに対処していくかが課題となっている。